

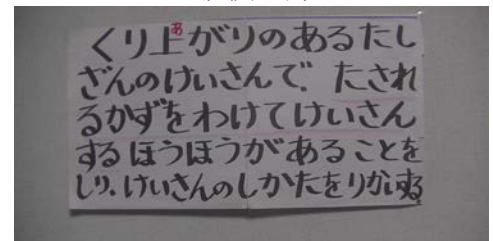
「授業備品」N077 H30.12.25 「教科の専門性Ⅰ」＊スタンダード（ベーシック）で教科の専門性を高める

スタンダード（ベーシック）の授業になじめない教師は、決まって「教科の専門性」が深まらないことを理由にする。だが考えて欲しい。これまでの教師主体の授業で教科の専門性は高まっただろうか。教師だけが教材研究をする方法で授業内容が充実しただろうか。データとして結果を残せただろうか。こうしたことの反省に立ちスタンダード（ベーシック）は作成されている。今回から教科の専門性（①付けるべき力 ②指導計画 ③本時のキーワード ④板書予定 ⑤見通し ⑥考察）を高める内容をお伝えしたい。既にこれまで行ってきたことの内容だ。そのことが教科の専門性にとらえてもいい。

1 つけるべき力（本時のねらい）（教科の専門性①）

新しい指導要領は、これからの社会を生き抜く力を育てることを最も力を入れている。それを受け各教科・領域にどのような力を育てるかが記述された。育成すべき3視点を中心に授業を進めて欲しいとの願いがある。これを受け止め、これまで以上に毎時間の授業でどんな力を子供たちにつけていくかを教師のみならず子供も意識する必要がある。そこで、授業のねらい（本時の目標）を「見える化」するとよい。黒板横に掲示する。併せて指導案にも掲載することで本時のねらいが教師にも子供にも明確になる。

○黒板横に掲示



○学習指導案に掲載

第5学年 組 算数科学習指導略案日時 平成 年 月 日（ ）第 校時 指導者 教諭
1 単元名 図形の角（図形の角を調べよう 本時 4/7）
2 本時の目標（付けるべき力）「多角形」を知り多角形の内角の和の求め方を考え内角の和を求める

2 指導計画（教科の専門性②）

これまで、教科の指導計画は、学習指導案や教科の進度を確認するとき教師が使うことが多かった。学習課題の設定時や、単元を通しての問題解決学習において子供たちにも必須なアイテムとなる。学習課題を立てにくい教科や、子供から出にくい場合は、この指導計画を見るとよい。学習指導案の掲載も重要だが子供に目に付く教室内に掲示するとよい。学習の進度を意識する子供が出てくる。

○教室内に掲示



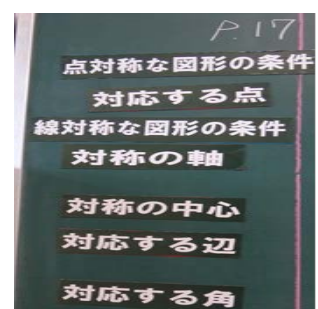
○学習指導案に掲載

5 指導計画（全6時間 本時 4／6）
1 次（3時間） 順列について、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、その方法を理解する。
2 次（2時間） 組み合わせについて落ちや重なりのないように調べる方法を考えその方法を理解する。
3 次（1時間） 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

3 本時のキーワード（教科の専門性③）

アクティブ・ラーニングは、単に子供たちが動くことではない。授業が分かるために動くのである。その一つが、本時のキーワードを前面に出し、学びの中で子供たちが使うことだ。指導案に記入し、黒板に掲示して授業を行うと、子供は必然的に使うようになる。教科の専門性を高めるためには、本時のキーワードが重要となる。教材研究の9割を占めると言っても過言ではない。なお、キーワードは、未履修のことも入れるとよい。子供に「気付き」を促す手立てとなる。

○黒板の隅に掲示



○学習指導案に掲載

1 本時の目標 具体的な事象の中から、反比例の関係を いだすことができる。
2 本時の評価規準 2つの数量関係に着目し反比 例の関係を見る。（見方や考え方）発表・ノート
3 本時のキーワード「対応する」「反比例」「比例定数」「2倍、3 倍・・・」「2分の1倍、3分の1倍・」